

子ども議会 一般質問 ここがききたい！

問 大都市には、若い人たちが「待ち合わせ」などに利用する、町のシンボルのようなモニUMENTがあると感じています。愛荘町にも、瓶手毬や秦荘地区のブドウなど、シンボルにできそうな可愛らしい特産品があります。こうした特産品を活かし、愛荘町でも、老若男女たくさんの方々に愛され、人が集うようなモニUMENTを作ってはどうかと考えました。

町民がモニUMENTを愛し、それをSNS等で発信し続けていくことで、愛荘町の知名度が上がり、愛荘町全体が盛り上がると思います。そして、町の活性につながれば、この町を愛し、この町に世帯を持ち住み続ける若者が増えたり、他の町から移住してくる人たちも増えたりするのではないかと考えたのですが、いかがでしょうか。

答 (みらい創生課参事) 愛知川駅前には町の伝統工芸品の「びん細工てまり」を模した郵便ポストや、町を代表する建物の一つである「ゆめまちテラスえち」では百年以上前に建てられた建物で国の伝統的工芸品に指定されている近江上布の展示や機織り体験ができます。

また、中山道にある旧近江銀行や、宇曾川の上流の宇曾川ダムなども町内外から多くの方が訪れるスポットです。

まちのシンボルとなるモニUMENTは、観光資源にもなり、それが町民の愛着と誇りに繋がるといった相乗効果を生むものです。町民が自慢できる町のシンボルを皆さんとともに町内外へ発信し、多くの方が愛荘町を訪れていただきたいと考えています。



あおき まほ 議員
(秦荘西小学校)

初めての議会に参加して、緊張しました。しかし、愛荘町をより良くするために質問出来て良かったです。このような貴重な経験ができてよかったです。ありがとうございました。

いしだ ゆずは 議員
(秦荘西小学校)

私は、役場の方々へ愛荘町を良くしようととても頑張っていると感じました。私がもし議員になったときには、愛荘町の未来が明るくなるような活動をしたいです。

子ども議会 一般質問 ここがききたい！

問 友だちと遊ぶ時に、雨が降り一緒に遊べなくなったことがありました。体育館で遊ぼうと思うと、無料の体育館が身近になく、また、近くに体育館があっても借りるお金が高いです。有料だと遊ぶ機会が少なくなり、ゲームをする時間が増えてしまう結果になってしまっている現状があります。以上のことから、私たちは、『無料の体育館・グラウンドを身近に置く』ということをご提案します。

愛荘町民が使える施設を増やすことで子供たちが運動するきっかけとなり、愛荘町の取り組みであったノーメディアデーも少しは目標へ近づくと考えます。また地域の人の関わりも増え、お年寄りや子ども関係なしに、愛荘町民の絆を深めることができると思います。

答 (生涯学習課長・福祉課課長補佐) 子どもから大人までが利用できる無料の体育館・グラウンドの設置、施設の無料開放については、運動不足解消と交流促進のために大切なことですが、維持管理していく費用が必要となります。

いつでも、だれでも使える施設を維持するために必要なお金の一部を、使用料としてご負担していただくことや、施設のルールを守り大切に使用してもらうことは、とても大切なことだと思っています。

これからもお年寄りや子ども、障害の有無に関わらず、だれもが気軽に使え、安心してご利用頂ける施設やイベントを実施するなど、さまざまな意見を聴きながら、共に学びあえる場を増やしていきたいと考えています。



おかもと つひぎ 議員
(秦荘東小学校)

子ども議会に参加して、とても貴重な経験ができました。私たちの提案が少しでも愛荘町のためになるといいと思います。この経験を中学校で生かしたいです。

きたむら めい 議員
(秦荘東小学校)

私は、代表でこういうのに出るのが初めてだった。リハーサルと本番、どちらもすごく緊張しました。でも、貴重な体験ができたので、これからもいろいろなことに挑戦しながら生かしていきたい。



こぐれ かりん 議員
(愛知川小学校)

この子ども議会は、子どもたちの声を町に届ける良い機会だと思います。まだまだ意見がある人は大勢いるので、私たちの思いが気軽に届けられる町になると、良いなと思います。

とよた なぎ 議員
(愛知川小学校)

初めて本当の議員の前で台本を見ずにたくさんの方の目を見てというのは、不思議と緊張しませんでした。皆も色々な自分の意見をしっかりと伝えていてすごいなと思いました。

問 愛荘町では、YouTubeやSNS、ボランティアガイドなど町内の魅力発信を行うために様々な取り組みが行われています。しかし、これら多くは子ども視点でつくられたものではないと思います。若い世代に魅力を伝えるためには、私たちが行う情報発信を有効活用することが効果的だと考えます。総合的な学習の時間などで作成したものを有効活用していただくことで、同じ世代の子どもたちの興味をひくことができると思います。また、作成する過程で私たちも愛荘町の魅力を身近に感じ、これらの学びや育ちに生かすことができると考えます。このように、子どもたちが行う情報発信を有効活用することで、今までになかった新しい世代の人の流れを生み、愛荘町の活性化につながると考えますが、愛荘町はどのようにお考えですか。

答 (副町長) 子どもたちが作成した町の魅力のポスターやパンフレットを活用することは、若い世代の関心を引くうえで重要な視点になります。愛荘町へ移り住みたいと思う人や住んでおられる方が、これからもずっと愛荘町に住み続けたいと思っていただくため、皆さんの視点を大切にしていきたいです。

今回の提案により、皆さんが作成したものを町の施設に設置や掲示したり、広報誌の紙面に掲載するなど、多くの方の目に留まるような活用方法を考えてみたいと思います。

皆さんも、これまでに学習で知った町の魅力をたくさんの方に伝えたいとき、愛荘町はいいところだなと感じてもらえるようご協力をお願いします。



あおき かいせい 議員
(秦荘西小学校)

貴重な議会に参加できて良かったです。きんちょうしましたが、しっかり質問出来て良かったです。たくさんの方の目を学ぶことができたので、この学びをこれからの学校生活に活かしていきたいです。

とむら しょうが 議員
(秦荘西小学校)

初めての体験ですごく緊張したけど、思い通り質問できて良かったです。いつもは中々ない雰囲気の中で貴重な体験ができたと思うので、これからの人生に生かしていきたいです。

問 近頃、「しが割」などの地域に根差した割引クーポンについてよく耳にします。しかし、滋賀県で使える「しが割」は抽選方式を取っており、滋賀県という人口の多さから県民全ての方々には届いていないのが現状です。そこで、愛荘町地域でのみ使用できる「愛割」を配布してはどうかと考えました。町民全戸に配布すると「平等感」と「話題性」が生まれると考えます。家族が4人以上の世帯は、3,000円のクーポンを配布、4人未満の世帯に2,000円のクーポンを配布してはどうかと考えます。愛荘町民だけが、愛荘町内のお店で使うことができ、町民と商店の結びつきも強くなり、商店の活性化にもつながると考えています。こうした、取り組みは可能でしょうか。

答 (商工観光課長) 町では、令和3年度から毎年、キャッシュレス決済ポイント還元キャンペーンを実施しています。令和5年度は、PayPayでお買い物物をされた場合、25%の還元を行いました。これは、1回あたり1万円のお買い物で、2,500円相当のポイントが戻り、1か月当たりでは、最大10,000円相当のポイントが戻ってくるもので、割引と同じ効果があります。

このキャンペーンは、抽選方式ではなく、だれでも還元を受けることができます。また、キャンペーンで使える店舗は町内に限られており、町内の商店活性化にも繋がります。

ご提案いただいたことを参考に、今後もまちの活性化に繋がる事業を考えて参ります。